



JAA通信

(Japan Autonomous Academy)

日本自治 ACADEMY 会報誌

Vol.9 2014年6月発行

(ホームページアドレス)

<http://japan-a-academy.jp/>

[発行]

NPO法人 日本自治ACADEMY
北海道下川町西町88番地2(株)谷組内
郵便番号 098-1205
Tel:01655-4-2595
Fax:01655-4-2596
E-mail:info@japan-a-academy.jp

Contents

P1 巻頭写真

「北の天文字焼き」(名寄市)

P2 フォーラム「アジアと北海道のつきあい方 パートVI」開催概要

P2 講演「タイと北海道の交流について」

<講師>サムット トゥサリーカセート氏

P5 パネル討論「アジア諸国との交流拡大
について」

<パネリスト>陳桎宏氏

<パネリスト>下笠哲太郎氏

<パネリスト>サムット トゥサリーカセート氏

<コーディネーター>神姿子氏

P11 日本自治 ACADEMY 事業紹介

会員セミナーの開催

見て知る地図情報事業

知って得する自治用語手帳の制作



北の天文字焼き(名寄市) この冬の2月8日に、街を一望する「太陽の丘」で、縦220メートル・横150メートルもの大きな火文字を雪上に描くというダイナミックなイベントが行われました。当日は、ドラム缶約270個を配置し、たいまつリレーで火を入れると、『天』の文字が夜空にくっきりと浮かび上がりました。このイベントは北北海道の14市町村を結ぶと「天」という文字になるという「北の星座共和国構想」に由来しています。

フォーラム「アジアと北海道の つきあい方パートVI」開催内容

日本自治 ACADEMY とグリーンシード21では、アジア地域との結びつきをより深めるため、2008年から毎年、フォーラム『アジアと北海道のつきあい方』を開催しております。今回は、独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)との共催で、2月19日に札幌市内で開催し、北海道タイドットコム編集長のサムット トウサリーカセートさん、台北駐日経済文化代表処札幌分処の陳処長、ジェトロの下笠課長代理をお招きし、それぞれのお立場からお話を伺いました。また、サムット トウサリーカセートさんにはご講演をいただくとともに、北海道石狩振興局の神局長にはパネル討論のコーディネーターをお願いしました。

講演要旨

サムット トウサリーカセート氏 (北海道タイドットコム 編集長)

1999年、タイの国立タマサート大学を卒業後、タイの環境団体と国連環境で実施された青年環境大使に選出される。2000年、日本の国費留学生として、北大大学院で日本の政治や地方自治の仕組みなどを学び、2003年に卒業。現在は、総合情報サイトの運営、北海道タイコンサルティングやタイ文化の紹介、通訳・翻訳などを通して、北海道とタイの交流促進に取り組んでいる。連絡先:(samut1@hotmail.com) 090-3776-9613

「タイと北海道の交流について」

今日私はタイから来て、北海道に住んでいるような活動を通して北海道で何を見てきたか、また私なりにこれからの北海道に何か提案できることがあればいいなという思いで話を進めたいと思います。



【本道の特徴を語るサムットさん】

私は14年前に北海道に来ました。北海道に来るきっかけとなったのは、日本の外務省とコンタクトをとった際、タイは暑いので涼しいところに行きたいと話をしたところ、北海道を推薦していただいたからです。北海道にはタイが持っていないものがたくさんあります。タイ人は冬とか寒さにあこがれがあり、私もそうです。そして、北海道大学法学部に入りまして、日本の地方自治や公務員制度などを学びました。理由は、タイの地方分権を進めるにあたって、日本の制度が非常に参考になると思ったからです。今日は議員の方も多くいらしているということで私にとっても勉強になります。

タイは日本に結構似ていて、日本には天皇がいますが、タイには王様がいます。また、タイの国会のシステムも日本と基本的に同じです。総理大臣も国会議員から選ばれます。ただ、タイと日本の地方行政でひとつ違うのは、日本の地方行政は直接選挙ですが、タイは知事が二人いまして、一人は内務省、中央政府が任命した知事で、あと一人は直接選挙で選ばれた人です。ですから、タイを視察される方々は知事が二人いるので、どちらが偉いかいつも疑問をもたれていますね。ただ将来的にはこの二人の知事は合併して一人になるという流れで進んでいくようです。

北海道とチェンマイが友好協定を結んだんですが、北海道が主にコンタクトをとっているのは内務省から任命された知事で、直接選挙で選ばれた人には力を入れていないようにみえます。

内務省から任命された知事の任期は 2 年と限られているので、民意で選ばれた知事とも積極的に交流を図っていただきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

私が感じた北海道の特徴は何かということですが、北海道の人たちは東北などいろんな日本各地から入ってきていますね。私はタイから来まして、そういう意味では、皆さんは先輩私は後輩です。北海道は開放感があって、ひとりひとりが力を合わせて北海道を発展させようとしています。北海道はそういうイメージをもって、いろんな国の人を歓迎すべきではないかと思えます。これが北海道の一番大きな特徴です。京都とかそういうところであれば、もともとそこに住んでいて他の人が来た場合はよその人とか、そういう気持ちがありますね。古い伝統があるところはつきあいにくいかもしれませんね。北海道は古い伝統はそれほどないですね。北海道にはいろんな人がいて、いろんな文化が混ざっている。これが私が今までみてきて感じた北海道の印象です。

次に、私は、北海道に来て、日本人はタイのことをどのくらい理解しているかを知りたいという気持ちで、道内の小学校や中学校などを積極的に訪問して、タイについて話をしてきました。ひとつわかったことは日本の子どもたちは大体どこにあるかも含めてタイのことをほとんど知らないですね。最初私は、タイは世界の中でも知名度が高いと思っていたので、正直びっくりしました。実際に日本に来まして、タイは知名度が低いと実感しました。でも、自分の力でタイの知名度をアップさせたり、日本の子どもたちにもっとタイのことを知ってもらうために、私もいろんな活動を通して、1,000 人以上の子どもたちと触れ合いました。私は、結局、私が会った日本の子どもたちが将来大きくなってタイの話をあらためて聞いたときに、前にタイのお兄さんから話を聞いたことがあるということ思い出して、タイを身近に感じてもらうことができればいいと思っています。そういう顔が見える国際

交流が大切だと思っています。

北海道にはいろんな外国人がいます。その方たちが積極的に小学校や中学校を訪問して交流してほしいと思います。国際授業とか国際交流の科目の中で、外国人との交流を積極的に進めていただけたらと思っています。子どもたちがいろんな外国人と付き合うと、北海道の国際化につながっていくのではないのでしょうか。また、外国人がその国の歴史や日本の歴史を語ると、高校生などはすごく刺激を受けますね。誰が正しいか間違っているかではなく、歴史にはいろんな見方があるということを経験者の口から語った方がわかりやすいと思います。

次に、観光という視点で北海道についてお話しします。私は通訳や、観光関係の仕事もしてきました。タイ人は冬の雪まつりとか夏のラベンダーのことが頭の中にあります。最近では北海道の食文化や乳製品などについてもわかってきています。これから、タイ人にもっと北海道に来てもらうことが私の仕事だと思っています。

1, 2 月のタイの暑い時期に北海道に来たら雪が見れるということもいいのですが、これからは雪と遊べるような体験型の観光、また、日本は 4, 5 月もいいシーズンですので、こういう時期にタイ人に来てもらう工夫をしていくことが必要だと思っています。それと、観光の中でも、視察という形態も増えてきていますので、各市町村で視察団体には喜んで協力しますという PR することも大切だと思います。今は、タイの人の視察は札幌市に集中しているのが現状となっています。

また、北海道では通訳ガイドが育っていませんね。タイ人は 5 万人ぐらい来ていますが、通訳ガイドはいません。いくら観光の宣伝をしても受入態勢が不十分ではだめですね。通訳ガイドの育成にもっと力を入れていただきたいと思っています。

それから、文化の違いの理解も大事な課題ですね。タイ人についていえば、ひとつは食文化で

す。タイ人は牛肉を食べない人とか豚肉を食べない人がいます。タイ人を受け入れるにはいろんなメニューが必要です。日本は専門店が多いですね。日本人は何でも食べられる人が多いですが、海外の人はそうではないので、食文化の違いをもっと考えてほしいと思います。ホテルのバイキング形式での食事の提供をみると、何が入っているかわからない料理が多いですし、表示していても英語とかに限られています。例えば牛肉を使っているというような写真がそばにあると誰でもわかるわけで、そういったユニバーサルデザインも取り入れた食事の提供を考えていく必要があります。

また、温泉文化の違いもありますね。北海道に来てタイ人は温泉にあまり入りません。入るのは2割程度です。私にとってはそれは大変もったいないことだなと思っております。なぜなら温泉は北海道の売りのひとつですね。入らなければ北海道の魅力もわかりません。今後の課題は外国人は裸で入るのが恥ずかしいと感じているので、どうやって入ってもらうのか、その方法を考えていかなければならないと思います。知恵を出していけばいろんな可能性があります。本州の方ではパンツをはいて入ってもかまわないというところもあるようです。日本の長い伝統のある入浴習慣ですから、なかなか変えられないということは理解していますが、国際化を図るためには、工夫できることがあればしてほしいということです。

次の課題に移りますが、それはお祭りのことです。札幌の雪まつりがいい例ですね。雪まつりでは国際コンクールがあつて、いろんな国の人たちが雪像を作っています。タイ人も参加してまして、3回連続優勝をしました。このことはタイの全国テレビや新聞のトップのニュースで扱われまして、札幌や北海道の地名は一般のタイの人たちにも知られるようになりました。よく皆さんからタイで北海道がどうしてこんなに人気になったかを聞かれるんですけど、私はこの雪まつりの国際コンクールだと思っています。

タイの政府観光庁は雪まつりのたびに、1週間くらいマスコミを連れてきていますので、連日テレビで雪まつりが放映されます。雪まつりを国際化するだけですがごく宣伝になるんですね。ですから、ほかの地域もこの札幌雪まつりをモデルにして町の伝統というものをどのように国際化させるか工夫をすると思います。国際化されていいことは、外国の人たちがそのおまつりやイベントで活躍すると、その国のメディアもそれを取り上げようということになります。

時間もせまってきましたので、最後になりますが、北海道は積極的に国際化に取り組んでいると承知しています。そのための委員会をいろいろと見てきましたが、だいたい日本人が国際化を語っていますね。その委員会に外国人をもっと入れたら、その委員会自体が国際化すると思います。私も意見を求められることがありますが、ほとんど議論がまとまった後です。私が言いたいのは、これから北海道を国際化していくためには、北海道にいる外国人を委員会などに積極的に登用していくべきだと思います。

きょうは皆様に私の経験に基づいていろいろな課題を提供させていただきました。私は北海道の方と結婚しているので、半分はタイ人、半分は北海道人です。今後とも北海道でお手伝いできることがあれば、積極的に協力していきたいと思っております。本日はどうもご清聴ありがとうございました。



【フォーラムの会場風景】

「アジア諸国との交流拡大について」

＜パネリスト(順不同)＞

陳桎宏氏＝台北駐日経済文化代表処

札幌分処 処長

下笠哲太郎氏＝ジェトロ サービス産業支援課

課長代理

サムット トゥサリーカセート氏

＝北海道タイトットコム 編集長

＜コーディネーター＞

神姿子氏＝北海道石狩振興局 局長(当時)

神 本日のコーディネーターをつとめさせていただく神でございます。ただいまサムットさんから貴重なお話をたくさん伺いました。私が携わっている手近な話では、最近、タイのガイドツアーを石狩管内の新篠津村で実施しまして、大変気に入っていただきました。それで今年の4月から入りたいということでこれから打ち合わせをすることになっていまして、雪も溶けはじめるので、何をお見せしたらいいか迷っていたところ、サムットさんのお話では、4、5月も十分楽しめるアクティビティーがあるということでしたので、これから現場の方と打ち合わせをし、受け入れを進めていきたいと思っております。

また、サムットさんからは、小学生との交流を通じた国際化や、ガイド養成の提案のほか、非常に示唆に富んだお話がございました。私の立場でできることは限りがありますが、提案内容などが進むよう、関係機関への働きかけなどを行っていきたくと考えております。

本日の進め方についてですが、最初に陳さんと下笠さんから自己紹介を兼ねまして、所管されている仕事内容などについてお話をいただきまして、その後、それぞれのお立場から、北海道観光や、道産品の魅力、課題、さらには今後の北海道に期待することなど、順次ご意見を伺



【パネリスト、コーディネーターの皆さん】

ってまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

陳 みなさん、こんばんは。台北駐日経済文化代表処札幌分処の陳桎宏でございます。去年の8月13日に着任したばかりですけれども、台湾の南にある高雄で仕事をしておりまして、そこで北海道の人事令を受けました。北海道というところは観光地という印象を強くもっております。私は外交部に入ってもう30年になります。この間に、東京、大阪、沖縄、そして今回北海道に赴任しました。いわゆる日本の東西南北です。

台湾では日本統治時代の50年間、札幌農学校出身の方々が台湾の農業発展に非常に貢献しまして、日本と台湾は非常に長く友好関係にあります。台湾人の日本に対する印象は良好なものがございます。私の父と祖父は日本の教育を受けました。家でも日本語を使い、また日本の習慣も残っております。

私は日本が大好きです。ですから学校を卒業してから特に日本との関係があった企業に勤めました。それからあるチャンスがあり、台湾の外交部の試験に合格しました。そして30年間ずっと日本と台湾の交流に努めておりますが、是非皆さんのお力もいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

下笠 本日はお招きいただきましてありがとうございます。日本貿易振興機構(ジェトロ)の

東京本部サービス産業課の下笠と申します。よろしく願いいたします。

ジェットロは経済産業省所管の独立行政法人です。日本企業の貿易投資の振興というのが主な業務となっております。また、近年では農林水産品の輸出促進、あるいは外国企業の日本への投資などが主な業務となっております。

私が所属しているサービス産業課では、主に日本の非製造業分野、居酒屋やラーメン屋さんといった外食産業の海外への進出、また百貨店やスーパー、コンビニなど流通業の海外進出、あるいは身近なところだと、教育産業、理美容業、ホテル業、金融関係などの幅広いサービス分野でお手伝いしております。

進出のお手伝いの対象国としては、韓国、中国、台湾、香港、アセアンなどですが、中国の反日デモ以降、中国本土への関心がほとんどなくなり、今は7割方が台湾、香港、アセアンに関心が向いている状況です。具体的な企業の進出については、年間2~300社ぐらいのお手伝いをしております。私自身も年に20回ぐらいは現地に行っております。

きょうは、タイと台湾の方がお見えになっているので、私の方からはタイと台湾以外で、実際に日本企業はどんな取り組みをしていて、どういったことで成功しているのか、あるいはどうすることで北海道のブランドが現地で広がるのか、また、現地の方が北海道に来てリピーターになっていくのか、そういったところをお話ししていきたいと思っております。

私は2006年から2011年まで韓国のソウルに駐在しておりました。その時には、北海道からの農水産品の輸出もかなりお手伝いしましたし、あるいは日本各地への韓国の観光客の誘致のお手伝いもしてきました。よろしく願いいたします。

神 昨年の訪日外国人数ははじめて1,000万人を突破しました。円安やビザの緩和、LCCの就航拡大なども手伝ったことでございますけ

ど、全国的にアジアを中心とする外国人観光客が飛躍的に増加している状況です。本道におきましては、国別では台湾が昨年上期実績で41%を占めている状況にありますが、陳さんから、台湾人からみた北海道観光の課題なども含めましてお話を伺いたいと思います。



【コーディネーターの神局長（現経済部観光振興監）】

陳 私の所属する弁事処は中華民国台湾の外交機関の窓口です。1972年9月29日は、日本は中華人民共和国との国交正常化に伴って中華民国台湾との国交を断絶しました。でも日台の方はいろんな分野で緊密な関係ですので交流を続けたいといけません。

それで同年12月に日本では財団法人の交流協会を設立しました。台湾では亜東関係協会を設立し、日本各地に出先機関を設けました。東京、大阪、沖縄、福岡、横浜にありまして、うちの弁事処は2009年12月1日設立されました。6番目です。

東京にある台北駐日経済文化代表処は大使館並の業務をやっておりまして、ほかの弁事処の方は邦人保護だけではなくて、ビザの発給、経済交流、文化交流、商業の交流など総領事館並のことをやっております。

札幌の弁事処ができる以前は毎年20万人を超える台湾人の観光客が来ておりましたが、去年は35万人の人的交流を果たしました。さきほど、

【台湾と北海道の交流について語る陳処長】



司会者の神さんがおっしゃったように外国人観光客が1,000万人を突破しまして、その中の1/5の216万人は台湾人の観光客です。またその中の1/6の35万人は北海道を訪ねてきた台湾人観光客です。非常に緊密な関係です。

その絆を末長く続けていくためには、観光だけでなく、経済交流、文化交流、修学旅行とか、また一番重要なのは青少年、子供たち、私たちの年代はお互いに理解しあえるんですが、青少年の方は相手の文化に触れないとわからないです。ですから、青少年の交流は私にとって重要な課題でございます。

また、札幌雪まつりでは台湾人の観光客が非常に多いです。南出身の私たちにとって、特に温泉に入りながら雪を見るのは人生で一番幸せです。台湾には一生雪を見ることができません。台湾人の大使も東京からわざわざマスメディア十数名を連れて札幌雪まつりを訪問したほどです。これから台湾人観光客はどんどん増えてくると思います。

神 タイからの観光客はまだ数の上では少ないわけですが、新千歳への直行便の就航ですとか、ビザの免除などによって、今後さらに伸びるだろうといわれています。サムットさんからは先ほど観光の視点でもいくつかの課題をお話いただきましたが、そのほかアドバイスなどがあればお話し願います。

サムット 北海道とタイはすごくいいパートナーだと思っています。北海道には雪がありタイ

人が多く訪れるようになりました。北海道の人をもっとタイに来てくれればいいと思っていますし、また、相互の文化の理解のためにも、タイ人が日本の家庭に泊まって、雪かき体験などをすることもいいことだと思います。

タイ人がなぜ北海道に来るかという、ヨーロッパに比べて近いということもあります。6時間で来れるのは魅力的ですね。また、同じアジア人ですから付き合いやすいですし、日本の料理も慣れているし、何回来てもあきないと思います。新千歳空港のドラえもんパークも人気があります。こういった新しい観光施設を開発していくこともリピーターを呼ぶためには必要です。

神 先ほどは下笠さんから貿易関係でアジア各国との様々な交流の橋渡しをしてお伺いしましたが、観光という視点を含めてアジア市場の実態、魅力などについてお話を伺いたいと思います。

下笠 世界で不動産価格が最も高いのはニューヨークでも東京でもなくて、香港です。その香港で一番地価が高いビルに入っているのは、日本の飲食店であったり、ラーメン店であったりします。ジェトロの事務所は世界に約70か所ありますが、日本企業の相談件数の最も多いのがヤンゴンの事業所です。

私が駐在していた韓国では繁華街をよくみていただくと、日本の企業が多い、日本の企業が一番進出しているのは実は韓国でして、ダイソーさんは数百店舗、ユニクロさんも約120店舗、ABCマートさんも約50店舗、C o C o 壺番屋さんも約20店舗展開されています。2000年以降日本のサービス産業はひっきりなしに進出していて、あまり撤退していません。定着しています。また、円高になれば日本の方が韓国に行き、円安になれば韓国の方が日本に来る、そうして毎年500万人ぐらいが相互に行き来しています。

今韓国で何が注目されているかというと、

りが好きです。あまり娯楽がなかった時代は、映画を見ることがと山登りが盛んで、今でもその名残があります。日本には非常に魅力のある山がたくさんありますので、九州をはじめとして、全国の自治体が韓国のリピーターを集めるために、トレッキングにスポットを当てた観光プランをたてております。



【アジアの市場の特徴について語る下笠課長代理】

また、韓国と中国ではテレビショッピングとインターネットで買うのが当たり前になっています。韓国や中国で旅行商品を売っていくときには、このテレビショッピングの活用は新しいルートだと思います。

韓国人の観光客を受け入れる時、これは九州なんかではよくあるんですが、日本と韓国のマナーは正反対のものが多くて、特に食事のマナーなど、日本は箸を横におきますが、韓国は縦におきます。日本は直ばしを嫌いますが、韓国は直ばしが基本です。茶碗も日本は持ちますが、韓国では持ちません。それで韓国の方が来られた時に、日本のお客さんからマナーが悪いという評判が立って、なかなか韓国の方を受け入れにくいということがあるとのこと。これは理解不足によるもので、そこをちゃんと伝えることが必要かと思います。

中国全土には一千万都市でも50以上あります。いろいろな問題はありますが、市場としては魅力があります。上海や北京には世界各地から多く

の企業が進出していますが、内陸の瀋陽、西安、西都などはまだまだ日本企業が進出していく余地があると思っています。

また香港は年間3,000万人の人が来ますが、その7割は中国本土から来ます。中国本土にダイレクトに売っていくのは難しいんですけども、香港を訪れる中国の中間層の方に知ってもらうため、香港のパートナーと組む日本企業が多くなってきています。中国本土を攻めるのに、台湾企業や香港企業と組むというのが最近の中国攻略の流れになっています。

シンガポールは小さい国ですけど、シンガポールというのはインドネシアやマレーシアなどアセアン諸国やインド、中東などから多くの方が買い物に来られます。シンガポールの使い方次第で、アジア全体の富裕層に訴えかけることができます。

マレーシアはシンガポールと似ていますが、イスラム教国への入口となっています。マレーシアはかなり厳格です。マレーシアに食品を売ることができますと、ハラールというイスラム特有の条件をクリアしたことになりますので、中東とかインドネシアなどイスラム教国へ物を売るきっかけになります。

インドネシアですが、世界で4番目の2億4千万の人口です。島国でして、ジャカルタに一極集中しているところがあります。皆さんタイの次に、ベトナムに進出するのがいいのか、インドネシアがいいのかというお話になるんですが、ベトナムとインドネシアは大きく違います。

ベトナムは共産国ですし、10~20代の方が人口の大きな割合を占めています。戦争の時代に多くの方が亡くなった国です。皆が平均的に上がってきているので、富裕層はそれほど多くありません。

一方、インドネシアは国の金融資産の9割を上位2%が持っています。2%といっても500万人です。ジャカルタには巨大なショッピングモールがありまして100を超えます。グレードの高い高級モールがそのうち20ぐらいあります。

巨大な富裕層市場ができあがっています。ジャカルタは客単価が高い市場となっています。高いものを限定的に売っていく企業の皆さんは、香港、シンガポール、インドネシアを選ぶという状況になっています。

タイについては、サムットさんがお話をされていますが、台湾と同様に、日本企業にとって、進出がしやすい国です。製造業を中心に商工会議所所属の企業だけでも 7,000 社ぐらいになります。約 6 万人の日本人が滞在していると言われています。タイに物をおくというのは、タイの方にも、日本人にも買ってもらえるということです。ただ、日本企業同士の過当競争になっているのも事実でございます。

概略を申し上げましたが、今、アジアはどの市場も伸びていますが、それぞれ特徴があることを知っていただきたいと思います。

神 下笠さんからアジア各国の市場の特徴などを中心にお話をいただき非常に参考になりました。陳さんから、台湾の立場からお話をお伺いしたいと存じます。

陳 台湾と中国大陸は、平和的に物事を進めております。台湾は、お互いの経済発展のため、中国大陸と、两岸経済協力枠組協定を締結しました。いわゆる ECFA (エクファ) ですね。ECFA を締結してから中国大陸の方は、台湾企業にメリットを与えてくれました。そして日本企業には、台湾企業と手を携えて中国大陸に進出するのにメリットが生じています。

日本企業には高い開発能力とブランド力があり、台湾企業には同じ中華文化圏ということで中国大陸への深い理解があります。日本のシンクタンクの調査では、日本企業の中国大陸への進出の成功率は 68.4%、一方、台湾企業の協力を得て一緒に進出する場合の成功率は 79.8%となる結果も出ています。

お互いに協力しあうことが大切ではないでしょうか。

神 まだまだお聞きしたいことがたくさんありますが、時間もせまってまいりましたので、最後に、道産品の魅力や課題、今後の北海道に期待することなどを皆様にお話しさせていただきたいと思っています。

サムット 北海道ブランドといえば乳製品、特にソフトクリームが人気です。牛乳については、今はタイで生産されたものを飲んでいますが、いずれは北海道で生産されたものも飲みたいですね。

タイの大きなデパートでは北海道物産展をやりたいところが多いです。食品の場合、日本の他の都府県だと合同で開くんですが、北海道は単独です。それだけ北海道の魅力があるからですね。また、デパート関係者と話した際、日本の食品のパッケージがよく変わることを問題にしていました。せっかくテレビなどで宣伝しても、輸入した時には、パッケージが変わってしまうことが多いので、消費者に古い商品だと勘違いされるということです。パッケージが頻繁に変わる商品は輸出には向いていません。タイに輸出するのであれば、少なくとも 2 年ぐらいは変えないことが必要だと思います。

陳 台湾と北海道の貿易はまだそんなに多くはないですけど、長芋や海産物などは台湾の人々に非常に歓迎されています。私にとって北海道の魅力はたくさんありますが、ひとつはカニですね。そして温泉、ラベンダーの花畑などに代表される大自然。台湾の観光パンフレットには大自然の景色がたくさんついています。以前は観光地としては沖縄が第一の選択肢だったんですけど今は北海道です。

北海道には、今サムットさんがおっしゃったような北海道ブランドなど、たくさんいいものがあるんです。是非、外国の方に大いにアピールしていただきたい。

私は着任してから、日台親善協会を作っている

いただきました。協会の方々には企業の方、文化関係者など多様で、熱心に台湾と色々な交流をやっていただいております。

これから、北海道の方々には台湾をはじめ、アジア諸国との交流を積極的に図っていただきたい。きょうご出席の皆さんの中で台湾と付き合いおうということで何かございましたら、是非教えてください。私も弁事処の一員として協力いたします。以上でございます。

下笠 私からは最後にアジア各国の市場のブームという観点からお話させていただきます。

今、アジア全体で日本のスイーツがブームになっています。サムットさんからお話のあった北海道の乳製品を使ったものとか、抹茶系のものです。

日本のB級グルメがどんどん広がっています。最初はラーメンブームからはじまり、それがとんかつ、カレーにあって、今は丼もので、かつ丼や天丼。こういったところがアジアの外食文化に入っています。またおむすびの専門店も増えています。コンビニでもおむすびがすごく売れています。

健康ブームを追い風に、関連して日本食が伸びるという現象もアジア全域に共通しています。

あと日本の食を売り込む時に気を付けなければいけないのはアジアの中間層の方は家ではあまり料理をしません。キッチンがない家も結構あるんです。多くの女性の方は外で働いていて、外から買ってきて食べる、いわゆる中食、それが多くなっています。

そういった中で、うまくいく事例は業務用食材として売れるケースです。韓国の事例でいえば、日本式の居酒屋やラーメン店が3,000軒ほどあります。ほとんどは、日本の業務用食材という形で卸会社から購入しています。

また観光客という観点ですけど、アジアの若い方などは、日本に行きたい時にはまず東京をあげられます。その場合、正確には、東京ではなくて千葉のディズニーランドです。以前はディ

ズニーランドに行って、秋葉原で家電を買って、百貨店に行くという流れがありましたが、今は、アジアで高級ショッピングモールができて、日本の百貨店で買うという必要はほとんどなくなっています。家電にしても日本のメーカーさんだけがいいものを作る時代ではなくなっています。最近では東京へ行く理由はディズニーランドぐらいになっています。

その中で、アジアにないものはひとつは雪、そして温泉、トレッキングなどで大自然を味わう。そういったものをすべて持っているのは北海道になります。北海道ブランドは群をぬいています。

アジアの市場に合わせてパッケージ化をしていただきたいと思います。売り方はテレビショッピングであったり、ネットであったり、フェイスブックであったりといろんな売り方があります。タイで、ある親日的な実業家の方のフェイスブックの登録者は130万人です。こういう商品が出たと紹介すると130万人の方が見るわけです。

お金がなくても、SNSなどを活用すると効果があるわけで、北海道もこれだけ資源がありますので、ご検討ください。その際は、ジェトロはお手伝いします。札幌の事務所をはじめ、帯広、旭川、函館にも相談窓口がありますので、お声かけいただきたいと思います。

神 みなさん、あらためて、北海道のブランドの高さを実感したことと思います。私も海外市場の特性を十分把握して戦略的に輸出促進を図ることや、末長く観光交流を深めるためにも、文化や、経済、青少年など多面的な交流を深めていく必要性を実感いたしました。パネリストの皆様どうもありがとうございました。

◆ ◆ ◆
日本自治ACADEMY事業紹介

会員セミナーの開催

日本自治 ACADEMY では、2013 年 9 月 28 日、当 ACADEMY のメンバーでもあるはまなす財団の小林好宏理事長を講師に、札幌市内で、会員セミナーを開催しました。小林先生（北海道大名誉教授）は、北海道大学経済学部長、北海道武蔵女子短期大学理事長などを歴任した後、公益財団法人はまなす財団理事長に就任し、北海道を代表する経済学者として幅広く活躍されておりましたが、昨年 12 月ご逝去されました。小林先生からは公共施設の整備に関して現政権の政策に対する所見や北海道の中小の建設業への影響、また全国的に老朽化が進む橋や道路、下水



【故小林氏（中央）の話に聞入る会員の皆さん】

道などの維持補修費の確保のほか、北海道の過疎地域の現状や、地方が生き残っていくための方策などについて幅広くお話をさせていただきました。大変実りあるセミナーとなりました。ここに先生のご逝去に対しまして謹んでお悔やみ申し上げますとともにご冥福をお祈り申し上げます。

見て知る地図情報事業

当 ACADEMY では、道内企業の協賛を得て、2008 年度から北海道マップをはじめとした各種マップづくり～見て知る地図情報事業を展開しております。制作したマップは次の 4 種類です（北海道マップについては英語版と韓国語版も作成しました）。

- ① 「2013 年版北海道マップ 179」（表面：市町村区域図、裏面：面積及び人口）

- ② 「2013 年版北海道マップ 179」（表面：市町村区域図、裏面：特産品と観光スポット、北海道遺産）

- ③ 「2013 年版ジャパンマップ 47」（表面：全国 47 都道府県区域図、裏面：市町村数、人口、面積、農業生産額など）

- ④ 「2013 年版アジアマップ」（表面：東アジア各国区域図、裏面：人口、面積など）

2013 年度においては、北海道教育委員会や札幌市教育委員会の協力を得て、道内の小学生にマップを配布しました（北海道マップ：3 年生、ジャパンマップ：4 年生、アジアマップ：5 年生）。

また、昨年 7 月には道庁を訪問し、高橋知事に各種マップの作成主旨や用途などについて説明をさせていただきました。



【高橋知事にマップを説明】



【作成したマップの表面一覧】

なお道本庁舎、新千歳空港内には、「北海道マップ・タペストリー版」を掲示していただいております。

知って得する自治用語手帳の制作

日本自治 ACADEMY とグリーンシード 21 では、知って得する自治用語手帳 Vol.1 「財政編」と Vol.2 「福祉編」の発行に引続き、昨年から、Vol.3 「再生可能エネルギー編」の制作に取り組み、この6月に完成の運びとなりました。

今回の用語手帳では、再生可能エネルギー用語の説明のほか、各地域での取組事例やその課題などについて掲載しております。

A6 版のはがきサイズです。議会議員、行政関係者の方々などに幅広くご活用いただければと考えております。

ご希望の方は、1冊 500 円（3冊以上送料無料）から受付をしておりますので、次のメールアドレスにお申込みください。

e-mail: info@japan-a-academy.jp

理事長挨拶

NPO 法人日本自治 ACADEMY が、2007 年 5 月に NPO の認証を受けてから、本年度で 7 年目を迎えるようとしています。これまで、「アジアと北海道のつきあい方」のフォーラムを始め、北海道をステージとした人材育成や地域活力の向上のきっかけづくりを目的として、様々な事業を展開して参りました。

特に、道内の小学生 15 万人に無償配布している「見て知る地図情報事業」は、本年度で 6 回目を数えることになり、教育関係者からの評価も高い上、多くの企業や道民の皆さんから、ご支援とご協力を頂いているものでございます。

また、2012 年度から編集発行を開始した「知って得する自治用語手帳」では、「財政編」と「福祉編」の 2 種類を発行したところであり、2014 年度は、Vol.3 として「再生可能エネルギー」を発行します。

さらに、NPO ドットジェイピー北海道支部が実施する道内の首長や議員へのインターンシップについても、積極的な受け入れを行い、近い将来北海道を背負う若者の育成の一助を担っているところでもあります。

【インターンシップ生へ下川町の取組を説明】



このように、事業をしっかりと企画運営しながら、地域社会への貢献と活動の充実を図っているものであり、国内や国際間において、さらなるネットワークを広げて参る所存でございます。今後とも、皆さまのご理解とご協力をお願い

すると共に、事業への参画や活動の参加をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

(理事長：谷一之)

【編集後記】 今回の会報誌は、フォーラム「アジアと北海道のつきあい方」を中心に、当 ACADEMY の事業内容を紹介させていただきました。今後は会員の方からのご投稿を掲載するなど、幅広い内容で誌面を構成していきたいと考えております。(K・S)